

1 国語

*** 開始の合図があるまで、開いてはいけません ***

試験が始まるまで、下の〔注意すること〕を読んでおいてください。

〔注意すること〕

- 問題用紙のページは13ページまでです。 解答用紙が1枚あります。
- 解答はすべて解答用紙に記入してください。
- 試験時間は、50分です。
- 印刷の見えにくい場合やページがぬけている場合は知らせてください。
そのほかの場合は、質問を受けません。
- 必要なものは、えんぴつ、消しゴム です。

※問いに字数制限がある場合は、句読点等をふくみます。

□ 次の問いに答えなさい。

問一 次の①～⑤の――線部について、カタカナは漢字に直し、漢字は読みをひらがなで答えなさい。

お盆を①行樂地で過ごす人や、ふるさとに②帰省する人などの
ラッシュが始まり、各地の③クウコウや④シンカンセンが乗り入
れる駅は、大きなスーツケースやかばんを手にした家族連れら
で⑤コンザツした。

問二 次の①～④のことわざの空らんに入る数字をすべて足した数
を、解答らんに算用数字で答えなさい。

(算用数字の例…1、2、10、20など)

- ① □度めの正直
- ② 悪事□里を走る
- ③ 石の上にも□年
- ④ □階から目薬

問三 次の――線部の言葉の意味が、他の三つとは異なるものを選び、
記号で答えなさい。

- ア 明日からの発表の準備が全部できた人は帰ってもいい。
- イ 彼は他の人の気持ちを思いやることができた人だった。
- ウ 彼は困っている人がいれば手伝いをする、できた人だ。
- エ この計算問題は難しく、できた人はとても少なかった。

問四 次の①・②の――線部の漢字の意味が、他の三つとは異なるもの
を選び、記号で答えなさい。

- ① 行 ア 行列 イ 行事 ウ 実行 エ 行動
- ② 絶 ア 絶賛 イ 絶望 ウ 絶好 エ 絶大

問五 次の文中の——線部は、~~~~線部ア～エのどこにかかっているか、記号で答えなさい。

ぼくはねおじいちゃん、自分では **ア** 詩は一行も **イ** 書きません
がね、**ウ** とっても **ウ** 詩が **エ** 好きなんです。

(壺井 栄 つぼい まさえ 『日めくり』による)

〔二〕 次のA～Cの文章は、奥野克巳『ひっくり返す人類学 生きづらさの「そもそも」を問う』の中で、ヘアー・インディアンについて述べられた部分です。これらを読んで、後の問いに答えなさい。

文章A

ヘアー・インディアンは、カナダ北西部に存在している狩猟採集民です。マッケンジー河と北極圏が交差する極寒の地域で、ヘアー（野ウサギ）などの乏しい食料源を求めてキャンプ生活をしていました。日本の文化人類学者の原ひろ子は、アメリカ留学中の一九六一年から六三年にかけて、約一ヶ月間にわたってこのヘアー・インディアン・ワールドワークを行いました。

日本やアメリカで教育を受けた原は、調査に入っていく時には、その社会に住んでいるひとりひとりの人の生き方について教えていただくという気持ちになることが大事だと考えながらワールドワークを始めたと言います。原は、「教えよう、教えられよう」という意識的行動は、人類にとって普遍的なものだと考えていたのです。ところが、ヘアー・インディアンと付き合ってみると、^①それらのことは必ずしも普遍的なことではないと考えるようになったのです。いったい、どういうことでしょうか？

原が最初に、人口三五〇人ほどのヘアー・インディアンのキャンプに調査に入った時のことです。ヘアー語だけでなく英語を話すことができる若者たちに、「英語は誰にならったの？」と聞くと、「自分で覚えた」という答えしか返ってこなかったと言います。聞き方を変えて

「どういうふうにして覚えたの？」と聞いても、「そりゃあ、しゃべってみるのさ」という答えだったと言います。また、大人の女性たちにムース（ヘラジカ）の皮のなめし方をどういうふうにして覚えたのかとたずねても、同じように、「自分で覚えた」という答えしか返ってこなかったようです。

そのうちに、ヘアー語には「誰々から習う」、「誰々から教えてもらう」という表現自体がないということが分かってきました。ヘアー語では「（^②）」と聞くことはできず、「どのようにしてそれを覚えたのですか？」とか、「どのように〇〇ができるようになったのですか？」とたずねるしかないのです。人々から返ってくる答えは、相変わらず、「自分で覚えた」の一点張りだったと言います。

a、生活をつぶさに観察していると、ヘアー・インディアンの文化には「教えてあげる」、「教えてもらう」、「誰々から習う」、「誰々から教わる」という考え自体がないということが分かってきました。女がムースの皮なめしをしている時、それを眺めている人は、「液には何を入れたの？」という質問をしたり、「肩の部分は固いね」といったコメントを発したりもします。bそれらは、当人に対して注意を与えているわけではなかったのです。批評する側は、それを当人がどう受け止めるかということに関心を持たなかったと言います。ただし、批評を聞いている皮なめしの当事者は、それによって、自分のやり方に修正を加えたり、新しい工夫を試したようです。

このようにヘアー社会では、やり方は自分で覚えるものだと思うれいて、「誰かに教わる」ということは考えられないのです。従って、「教え方の上手・下手」などありません。c、どうやら「覚え方の上手・下手」はあるようです。

「教えてあげる」、「教えてもらう」がないわけですから、ヘアー・インディアンには「師弟関係」というものはありません。先生の役割、生徒の役割という役割関係が見当たらないのです。「師弟関係」が成立する第一の条件は、「教える・教えられる」行動が存在することであり、第二の条件は、師弟のあいだに相互に期待される意識や行動に関して約束ごとがあることです。たとえば、ピアノの先生は生徒にピアノを教え、生徒が自分でも毎日練習して弾きこなせるようになることを期待します。そして生徒側は教えてもらうとともに、上達を目指して練習することを求められていると考えて、行動します。しかしヘアー社会には、その③どちらもないと言うのです。

次いで原は、「教える・教えられる」という概念がなく、「師弟関係」などがないヘアー・インディアンの文化の基盤にはいったい何があるのかを探っていきました。

その結果彼女は、彼らの文化には、「人間が人間に対して、指示・命令できるものではない」という前提が横たわっていることを発見します。ヘアー社会では、親といえども子に対して指示したり命令したりすることはできないのです。人間に対して指示を与えることができる者は、ただ「守護霊」だけなのです。それは目に見えない存在です。日々、親や先生に指示されたり指導されて生活を送る私たちからすると、④驚くべきことです。

そのため彼らは「ものごとは自分で（守護霊のもとに）覚える」以外はないと言います。そう考えると、「○○を誰に習ったのですか」という質問自体がナンセンスであり、「自分で覚えたのさ」という回答がいかに当然であったのかに、原は納得がいったと言います。

いかがでしょうか？ 私たちが当たり前だと思っているやり方とはず

いぶん異なるやり方をしている社会があることがお分かりいただけただでしょうか？

注 * 普遍的 広く多くの物事にあてはまるということ。

文章B

原が紹介するのは、彼女のテントと一緒にすむことになったメリーという女性のエピソードです。初めての食事は原が準備したのですが、その次の食事はメリーが準備するというので、原はメリーに任せて別のテントにインタヴューに出かけました。

最初の食事で原は、アルミニウム製の小型トランクを食卓にして、その上に塩、胡椒、スープ皿、スプーン、ホット・ケーキ風パンの皿、バターを並べました。そしてメリーが準備した二回目の食事を見た際、原は非常に驚いたと言います。メリーはスプーンを三つ重ねるところまで含めて、原がやったのと全く同じように、まるで鏡のように、食材や食器を並べたそうです。それらの配置は、メリーが原から教えてもらったものではありませんでした。

文章C

もうひとつ、テントで原がおしゃべりをしながら折鶴を折っていた時の話を紹介しましょう。ヘアー・インディアンの子どもたちに原が折り鶴を折ってみせると、子どもたちは「もうひとつ折ってくれ」と何度も言います。そこで、その通りに折って見せていると、今度はその紙が欲しいと言われました。原が折り鶴を渡すと、自分たちで一生懸命折り始めたのです。

ヘアーインディアンの子たちは「教えてよ」とは言いません。自分で試行錯誤しながら折り鶴を完成させます。そしてこれできたと思ったら、原のところに見せに来るのです。子どもたちは、「今度は違ったものを教えてよ」とは言わず、「ほかに何か作れるか？」と聞いてきます。ヘアーの子どもたちは、何が行なわれているのかをじっくりと観察して、やってみて、修正しながら独力でものを作り上げます。 (中略) ヘアーの子どもたちは何かものを作る時、作り方をすでに知っている人、つまり先生とやり取りをしながら学んだり、覚えたりはしないのです。彼らにとって大事なものは、自分と紙とのあいだで相互応答を続けながら、もの作りを進めていくことなのです。

問一 — 線部①「それらのこと」とは、どういうことですか。それを

を説明した次の文の空らんにあてはまる言葉を、本文中から十字以上、十五字以内でぬき出して答えなさい。

() () と思うこと。

問二 (②) には次のどの言葉が入りますか。最も適切なものを

次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア いつできるようになったのですか？
- イ それは誰から教わったのですか？
- ウ なぜそれを練習しているのですか？
- エ どこでそのことを知ったのですか？

問三 [a]、[b]、[c]に入る語として最も適切なものを

次のア～オからそれぞれ一つ選び、記号で答えなさい。

- ア だから
- イ ただし
- ウ また
- エ しかし
- オ つまり

問四 — 線部③「どちらもない」についての説明として、最も適切

なものを次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 教え方の上手、下手はなく、どのような先生に習う時でも生徒は自分で努力し、先生に期待することはない、ということ。

イ 技術などが上達することは期待されず、生徒がどのような技術を身につけるとときも真剣しんけんに取り組むことはない、ということ。

ウ 教える側と教えられる側に上下関係はなく、教えられる側の人間が強く緊張きんちょう感や不安を感じることはない、ということ。

エ 知識や技術を一方が授けまづ一方が授けられるという関係はなく、生徒が教師に期待されて努力することはない、ということ。

問五 — 線部④「驚おどろくべきこと」とはどのようなことか、四十字

以上、五十字以内で説明しなさい。

問六 **文章B**はヘアー・インディアンヘアー・インディアンの一人の女性「メリー」について述べられたものです。これについて、次の問いに答えなさい。

(1) この文章からわかる「メリー」の能力について、二十五字以上、三十五字以内で説明しなさい。

(2) メリーはなぜ(1)で答えた能力を身につけることができたのですか。次の文が、その答えになるように、**文章A**から五字以上、十字以内の言葉をぬき出して答えなさい。

ヘアー・インディアンヘアー・インディアンの社会では、どのようなことも() 必要があるから。

問七 **文章C**は、ヘアー・インディアンヘアー・インディアンの子どもたちについて述べられたものです。これを読んで、ヘアー・インディアンヘアー・インディアンの子どもたちの、ものの学び方について、五十字以上、六十字以内で説明しなさい。

問七 **文章C**は、ヘアー・インディアンヘアー・インディアンの子どもたちについて述べられたものです。これを読んで、ヘアー・インディアンヘアー・インディアンの子どもたちの、ものの学び方について、五十字以上、六十字以内で説明しなさい。

三 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

ホタルの住む川をきれいにしてホタルを見に行くという、五人一組のボランティア参加を担任がクラスに呼びかけた時、手を挙げたのは吉岡螢子だけだった。鈴木真優は本音では参加してみたいと思いつつ、友達の遠藤咲たちに遠慮して言い出せずにいた。しかし、少しずつ吉岡さんと話すようになって、彼女から「鈴木さんはアメンボみたいだね」と言われる。真優はなぜ自分がアメンボに似ていると言われるのか分からなかったが、話が進む中で思い切って次のように切り出した。

「あのさ。① どうしてわたしがアメンボなの？」

ようやく理由を尋ねると、吉岡さんは驚いたように目を見開いた。そして、「伝わらなかったんだ」としよんぼりした声で言う。

「あつ、ごめん。わたしの理解力が足りないのかも」

「ううん。わたしが伝えるの下手だから。ちよつと待ってね」

首を横に振って腕を組み、真剣に考えはじめた吉岡さん。少しでも気持ちを汲めればと、これまでの会話を思い出しながら次の言葉を待った。

「鈴木さん、いろんな場所でうまく適応しながら生きてるじゃん。わたしとも、遠藤さんとも、うまくやってる。そういうところがアメンボに似てるって、言いたかったの」

思いもよらない理由にハツとする。

そんなの過大評価だ。わたし、そんなにすごい人間じゃない。

「……わたしはこんなふうには水の上を歩けてないよ。いつもおぼれてるようなもんだし」

なにを言うにも周りの目を気にして、顔色をうかがって。言うか言わないか迷っているときは、水の中でもがいているのと一緒だ。そんなわたしのことを、吉岡さんはアメンボに似ているのだという。

「うーん、なんか鈴木さんは、これからどんな場所に行っても、アメンボみたいに上手に歩いていきそうだなって思った」

どんな場所に行っても。その言葉でわたしは思い出した。

今まで、幼稚園でも小学校でも、クラス替えがあっても、クラスでひとりぼっちということはなかった。嫌がらせをされたり面と向かって悪口を言われたりしたこともない。

それは、わたしが八方美人で相手に合わせて過ごしているから。だけど吉岡さんはそんなわたしの性格を長所だと言ってくれる。そして。

「水の中でおぼれちゃうならさ、水の上を歩けばいいんだね。川でも、池でも、水溜まりでも。それができる鈴木さんがなんだかうらやましい」

その言葉を聞いた瞬間、ストンと、心の中になにかが落ちた。

今わたしがいるのは、暗くて濁っていて泳ぎづらい水の中。そんな「合わない」場所でもわたしは泳げる。吉岡さんが言ってくれたとおり、それはすごいことなのかも。

でも、無理して泳ぐことはない。わたしがいる場所は、ここだけじゃない。

別の場所でも、うまくやっていけるかもしれない……。そう思ったら、だんだんと気持ちが軽くなっていく。

わたしは水辺にそっと手を伸ばして、細長いアメンボに触れようとした。

その手に気づいたのか、逆方向へと跳ねていく。

きつと今、リーダーが作動して危険を察知したのだ。ほんの少ししか水面に触れていないのに、気づかれてしまった。

すごい。そうつぶやくと、横で吉岡さんは「でしょ？」と笑った。

吉岡さんがまるで自分が昆虫代表のような言い方をするのがおかしくて、わたしも声を出して笑った。

「吉岡さんって、本当に虫オタクなんだ」

「オタクって……まあ、否定はしない」

「ふふ。ホタル、見られたらいいね」

「うん、でも五人も集まるかな。ただでさえわたし、クラスのみんなにきらわれているだろうし」

真顔でそう言った吉岡さんに、**②**言葉が詰まる。

さっきのアメンボがまた水の輪を作った。

「……集めようよ。あと三人。わたしも頑張るよ」

なんのアテもないのにそんなことを言ったわたしに、吉岡さんは大きくまばたきをする。

「鈴木さん、本当に参加するの？ ボランティア」

「？ う、うん。今度はちゃんと申し込むから」

③……そっか」

その口元がかすかにゆるんでいたから、わたしはなんだかうれしくなる。

そして、わたしと吉岡さんは暗くなるまでたくさん話をした。

吉岡さんは、お父さんが大学で生物学の研究をしていて、その影響

で虫が好きになったこと。今住んでいる家は二丁目の動物病院の近くだけど、実は虫と違って動物はあまり好きじゃないってこと。話すのが苦手だと言っていたけれど、じつくりと話を聞いていけば嫌な発言なんて一つも出なかった。

家に帰ってスマホをチェックすると、咲たちとのグループラインにたくさんメッセージが届いていた。どうやらわたしがなかなかレスポンスを返さないことに不満を持ったらしい咲が、何度もわたしの名前を呼んでいた。

いつもなら焦ってうまい理由を考えて打ち込むだろう。だけど今、どうしてか気持ちはおだやかだ。

深呼吸して一言だけ、グループにメッセージを入れる。

【わたし、ホタルのボランティアやることにしたんだ】

翌朝、教室に入るなり、咲が静かに話しかけてきた。

「ちよつと真優、昨日のアレどういうこと？」

決して怒鳴っているわけではないのに、咲の顔が、声が、怒っているのがわかる。本当は直接口で伝えるべきだってわかってたけど、いざ面と向かって言い出せるか不安だった。

決心が鈍らないように、先にメッセージで思いを伝えた。**④**すぐに

【は？】と返事が来たけど、【詳しくは明日学校で話すね】と返した。それから何回かスマホが鳴ったけれど、既読もつけていない。

「……ごめん。本当はわたし、ホタル見てみたいって思ってたの」
まただ。うそいつわりない気持ちを言葉にすると、涙が出そうになる。

それはどんなに強い決意の後でも同じなんだって気づいて、泣きそ

うなのを必死にこらえた。

「いくら真優がやるって言っても、あたしはやんないよ？」

「うん。わかってる」

「吉岡と一緒にやるんだ？」

「……うん」

うなずくと、咲は顔をしかめた。そして小さい声で、

「あたし、吉岡のこときらいなんだけど」

と言った。

知ってるよ。そんなの、誰が見てもわかるもん。でも、好きとかきらいとか、そんな気持ちまで咲に合わせる必要ないよね？

「わ、わたしは、吉岡さんのこと……きらいじゃないから」

⑤ ついに言った。だけど「言ってしまった」とは思わなかった。

咲にきらわれたくなくて、いつも顔色をうかがって、咲の言うことにはなんでもうなずいて。今まですつと、そうしていれば平和だった。ときどきちょっとだけ心が疲れても、がまんしてやり過ごす。そうしてこのまま二学期も三学期も過ごして卒業するはずだったんだ。

だけど、水の中でおぼれていたわたしに勇気をくれたのは、吉岡さんの言葉。わたしはどんな場所に行ってもきつと歩いていける。

だから今、咲を怖がってホテルのボランティアをやれなかったら絶対に後悔するって思った。そして高校生になっても大人になっても「誰かに合わせてやりたいことをやりたいと言えない鈴木真優」のままだ。

「真優、いいんだ。それで」

咲はすつと真顔になって、ひどく冷たい声で言った。

それは「あたしと友達じゃなくなってもいいの？」って意味だったわかった。

咲とケンカしたいわけじゃない。だけど、わたしはもう水の中でおぼれたくない。

「……うん」

⑥ 背中にはべっとり汗をかいているのがわかるし、足だつてちょっと震えている。夏だつていうのに体温が急激に下がっている気がする。咲の目つきが鋭くなって「怖い」って思ったけど、それでも後悔はない。

「ふーん。そっか」

まるでなにもなかったみたいに、咲は自分の席にもどっていく。心配そうにこつちを見ていた奈津実とあかりになにか言った。そして三人は一切こつちを見なくなった。

改めて、わたしと咲は友達でもなんでもなかったんだなあとと思う。これだけのことでしゃべらなくなるくらい関係。寂しいよりも、切ないと感じた。

⑦ 自分の席に着くと、長谷部くんがチラチラとこつちを見ていた。どうやらわたしと咲のやり取りが聞こえていたみたい。どう反応したらいいかわからなかったから苦笑いを返すと、あわてて前を向いて本を読みはじめってしまった。

そういえば長谷部くんって、教室にいるときはだいたい一人で本を読んでいる。たまに小野くんとか他の男子ともしゃべるけど、基本的に一人行動だ。

そんな小野くんだっていつも人に囲まれていても、「特定のグループ」には入っていない。吉岡さんだっていつも一人で過ごしている。なんだ。一人って、そこまでめずらしくないんだ。

最初の一日二日は「咲と真優、ケンカしたのかな」とか「鈴木さん、

一人でいるよ。仲間外れ？」なんてヒソヒソ声が聞こえてきたけど、五日も経てば誰もなにも言わなくなった。

……意外だったのは、それからすぐに、奈津実とあかりの二人も咲と一緒にいるのをやめたってこと。

奈津実とあかりは二人でご飯を食べるようになって、わたしと咲はそれぞれひとりぼっち。四人組が見事に分裂しちゃうなんてびっくりだ。

一人での昼食はかなり早く食べ終わるし、誰かと話すこと自体が少なくなった。

「ただこれは長い人生の中のほんの一瞬なのかも。そして、

「ご飯食べ終わった？ ヒマならボランティアのチラシ配りやらない？」

新しくできた友人の不器用なお願いにうなずく。

「嫌なことは嫌って言って。わたし、察するとか苦手だから」

と、吉岡さんに言われた。これからは、本当にやりたくないことはハッキリと嫌だと言おうと思った。

わたし、この夏にホタルを見られるかな。

ボランティアに行ってみられたらうれしいけど、もし今年みつけれなくてもいいや。

たとえ今がダメでも、これからの長い人生のうちのどこかでは見ることができるような気がするから。

(いがらしみさと 『五十嵐美怜』15歳の昆虫図鑑』による)

問一——線部①「どうしてわたしがアメンボなの？」とありますが、

「吉岡さん」の答えはどういう理由でしたか。解答らんに合うような二十字以内の表現を本文中から探し、始めと終わりの五字をぬき出して答えなさい。

問二——線部②「言葉がつまる」とありますが、この時の真優の気

持ちとして最も適切なものを次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 嫌われ者の吉岡さんと、残り三人のボランティア仲間を探さなければならぬ難しさを自覚し、不安に思う気持ち。

イ 吉岡さんに、ボランティア仲間を残し三人見つけるいい案を提示できない自分を、情けなく思う気持ち。

ウ 吉岡さんに嫌われ者の自覚があると感じ、彼女の心の痛みを思いやっ、何と声をかければいいのかとまどう気持ち。

エ 一緒に笑いあっていたのに、吉岡さんが急に自分は嫌われ者だと深刻な話をし始めたことをいやだ思う気持ち。

問三

——線部③「……そっか」と言った時の吉岡さんの気持ちとして最も適切なものを次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 真優からボランティアに参加するとはっきり言ってもらい、仲間ができてうれしい気持ち。
- イ これまで消極的だったボランティアへの参加を、真優があつさり承知したことにとまどう気持ち。
- ウ これまでボランティアに誘^{まき}ってもうまくごまかして逃^にげてきた真優の本心を疑う気持ち。
- エ 真優が本心でなくても参加するといってくれた、自分への気遣^{きづか}いに感謝する気持ち。

問四

——線部④「は？」と返事が来た」とありますが、この時の咲^{さき}の気持ちとして適切でないものを次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 自分は参加する気のないボランティア活動に、これまでずっと一緒だった真優が参加すると言ったことに驚^{おどろ}く気持ち。
- イ 真優が、自分が嫌^{きら}う吉岡さんと一緒にボランティア活動をする^{する}と聞いて、真優に裏切られたような不快な気持ち。
- ウ 自分の気持ちに反したボランティア活動に参加する^{いう}ことは、自分から離^{はな}れるつもりなのかと真優を疑う気持ち。
- エ 真優が嫌われ者の吉岡さんと一緒にボランティア活動をする^{する}と聞き、真優までのけ者にされることを心配する気持ち。

問五 — 線部⑤ 「ついに言った。だけど『言ってしまった』とは思

わなかった」とありますが、「ついに言った」で終わらずに『言
ってしまった』とは思わなかった」と付け加えることによって、
真優のどういう気持ちが読み取れますか。それを説明した次の文
の空らんになさわしい表現を、自分で考えて答えなさい。

▼ 「言ってしまった」というと、「言った」というよりも言ったこ

とが（ 1 ）ように感じられる。だから、『言ってしまった』
と思わなかった」とつけ加えることによって、この時の真優の

（ 2 ） 気持ちがより伝わってくる。

問六 — 線部⑥ 「背中にはべっとり汗をかいている」とありますが、

この時の真優の気持ちとして適切でないものを次のア～エから一
つ選び、記号で答えなさい。

ア 咲の気持ちに反してボランティア活動に参加する以上、咲
との関係が変わることを覚悟する気持ち。

イ 吉岡さんと友達になれなければ自分はクラスでひとりぼっ
ちになるのではないかと不安な気持ち。

ウ 予想はしていたものの、自分が正しいと思いきんでいる咲
のあまりの怒りように怖くなる気持ち。

エ これまで逆らったことのない咲に対して、反論し続ける
緊張に、必死に立ち向かおうとする気持ち。

問七 — 線部⑦ 「自分の席に着くと」とありますが、その後のクラ

スの光景から、真優は改めてどういうことに気づきましたか。二
十字以上、三十字以内で答えなさい。

問八 このお話を読んで、安子さんと梅子さんが次のような会話をしています。それぞれの空らんらんにふさわしい表現を、二十字以上、三十字以内で考えて答えなさい。

安子	本文では「水におぼれる」という表現が度々 <small>たびたび</small> 使われているけれど、真優は、自分のどういったところを「水におぼれている」ように感じていたのかな。
梅子	(1) ところじゃないかな。
安子	でも、そうした自分と決別することにして咲に話したんだよね。
梅子	最後にホタルを「もし今年みつけられなくてもいいや」「たえ今がダメでも、これからの長い人生のうちのどこかでは見ることができるとような気がする」と考えているけれど、それは真優が (2) と考えることができるようになったからなんでしょうね。

受番 験号

名前

一

問一 ①

②

③

④

⑤

問二

問三

問四①

②

問五

二

問一

問二

問三 a

b

c

問四

三

問一 真優は

から。

問二

問三

問四

問五 (1)

から。

(2)

問六

問七

問七

問八 (1)

問八

(2)

問八

問六 (1)

問六

(2)

問六

問七

問七

*採点者使用欄 ここから左には何も書かないこと。

一
二
三

採点者使用欄